

子、皇子帳内佐伯部賣輪仲更子抱屍駭惋不解所由反側呼號往還頭脚、

〔日本書紀欽明十九〕二十三年七月所虜調吉士伊企儻爲人勇烈終不降服新羅鬪將拔刀欲斬逼而脫揮追令以尻脣向日本大號叫也咲曰日本將齧我臍臚卽號叫曰新羅王噏我臍臚略下

〔日本書紀孝德二十五〕五年三月庚午喚物部二田造鹽使斬大臣山田麻呂倉之頭於是二田鹽仍拔大刀刺舉其完叱咤啼叫而始斬之

〔今昔物語二十六〕利仁將軍若時從京敦賀將行五位語第十七

物高ク云音ハ何ゾト聞バ男ノ叫デ云様此邊ノ下人承ハレ明日ノ卯時ニ切口三寸長サ五尺ノ薯蕷各一筋ヅ持參レト云也ケリ略中夜前叫ビシハ早フ其邊ニ有下人ノ限リニ物云ヒ聞スル人呼ノ岳トテ有墓ノ上ニシテ云也ケリ

〔保元物語二〕白河殿攻落事

院御所へ猛火夥ク吹懸タレバ院中ノ上膚女房乳母童ハ方角ヲ失テ呼リ叫テ迷アヘルニ略下宇治拾遺物語三大路に女こゑしてひはぎありて人ころすやとをめく略下

〔源平盛衰記二〕額打論附山僧燒清水寺并會稽山事

一天ノ君萬乘ノ主條ニ世ヲ早セサセ給ヌレバ略中高キモ卑キモヲメキ叫東西ニ迷ケルコソ不便ナレ

〔新撰字鏡口〕嘯蘇弔蘇市ウソフク也

〔書言字考節用集八〕吟說文伸

〔倭訓栞前編四〕うそふく神代紀に嘯をよめり新撰字鏡にうそむくとよめりうそ吹の義うそ

鳥の鳴が如くするをいふ物にうそ打ふきてともうそを吹とも見えたりはとふくといふ詞に